

- * ペンテコステの出来事を見た人々はこれは一体何事かといかぶったので、ペテロは他の11弟子と共に立って説明する。最初の説教である。
 「神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。ですから、神の右に上げられたイエスが、御父から約束された聖霊を受けて、今あなたがたが見聞きしているこの聖霊をお注ぎになったのです。」（使徒2：32～33）ペンテコステは、あなたがたが十字架につけて殺したイエス・キリストが約束されたことであつたのだ、という。
- * 「人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、『兄弟たち、私たちはどうしたらよいのでしょうか』と言った。」（使徒2：37）聞いていた人々の心の中は様々であつただろう。たった50日前の十字架のイエスを見た人、実際にイエスを快く思わなかった人、逆にイエスには何か真実があるような気がしていた人、ただの傍観者もいただろう。しかし、ペテロの説教を聞いて多くの人が「心を刺された」。それは、自分もイエスを十字架につけた一人だということを自覚したからである。そこで、深い嘆きと救いを求める思いがおこされたのである。
- * 私たちは人生の様々な局面で「どうしたらよいか」と真剣に悩む時がある。その時にどうするかが、私たちのその後の人生に本当の喜びや希望があるか、絶望のまま生きるかの分かれ目になる。問いかけを神に向かつて真剣にするならば必ず答えてくださる。ペテロは、その答えを代弁する。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していた
- だくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」（使徒2：38）
- * 「悔い改める」とは、先ず、具体的な罪や悪を自分で認め、そのことを神に対して告白し、赦しを乞うこと。しかし、それだけではなく、常に神の御心を求め、神に従って生きていくように人生の生き方の方向転換をすることである。下を向いて歩いていたのを、上を（天を、神を）見て歩く、神中心の生き方に変えることが悔い改めるということである。
- * 「バプテスマを受けなさい」。イエス・キリストが私の贖い主であることを神と人の前で告白し、悔い改めたこととしるしとして、バプテスマを受ける。罪に対して死に、神に対して生きる信仰生活のスタートである。
- * 悔い改めてバプテスマを受けた者は、神から賜物として（＝無償で）聖霊を受ける。聖霊の神は、すでに人々に悔い改めて救いを求める思いを起こさせ、また、バプテスマを受けたいという思いにさせるよう働いておられる。しかし、最大の聖霊の恵みは、イエスを信じてバプテスマを受けた者の中に宿り、私たちの信仰がなくならないように、むしろ成熟に向かつて歩むことができるように信仰者を守り、支え、導き続けてくださる方である。